

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700682		
法人名	医療法人社団柏木内科医院		
事業所名	グループホームあおば		
所在地	北海道中川郡幕別町札内青葉町311-1		
自己評価作成日	平成24年7月20日	評価結果市町村受理日	平成25年7月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は事業者が医師ということもあり利用者の健康管理はもいろん終末期の看取りも可能な数少ない施設である。又、医院が同一敷地内にあるため状態の変化にすぐに対応できる。季節を感じていただけるように行事、花壇作り、施設内の模様替えを行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0174700682-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年6月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は町の新興住宅地に建ち、帯広市と隣接する地域に立地している。同一敷地内に同一法人の医院とも一つのグループホームが軒を並べており、相互にとって頼もしい協力体制となっている。この事業所の最大の特徴は、介護と医療の複合的見地からのケアが行われている事である。母体法人は30年前から当地で地域医療を担っており、当事業所においても、緊急な医療から慢性疾患の管理、看取り介護まで積極的に医療の役割りを果たしており、利用者のみならず、家族の支えにもなっている。またケアの面でも充実しており、たとえば入浴では、お湯を掛け流し状態でふんだんに活用し、豊かなお風呂という満足感と清潔なお風呂である衛生面の両方に留意したケアに取り組んでいる。地域との交流も密に保たれており、特に運営推進会議には母体医院の院長も必ず出席し論議を深めるなど、地域と一体になってサービス向上に臨んでいる。今後も地域ケアの基幹として注目し期待したい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し来訪者にも見て頂けるようにしている。 勉強会、職員会議でも理念については職員全員で話し合い、実践が理念に基づくよう取り組んでいる。	同法人の3つのグループホームとも同じ理念であり、各職員ともに浸透し、しっかりと理解をしている。どんな時も理念に立ち返り、介護の基本に忠実なサービスを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出かけ近隣の方たちと挨拶を交わしたり、ホームの祭りには近隣の皆様にも声をかけて参加している。	住宅地にあり、地域とは日頃から普段着の交流が維持されている。散歩での声かけや災害訓練時での参集と、仲の良い関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業者が医師であることもあり、利用者の健康管理はもちろん、地域の方々の健康管理にも貢献している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議で評価への取り組みや地域での活動を議題に揚げ、活発な意見交換を行っている。 又、全員周知で取り組んでいる。	2ヶ月毎に地元代表や役場職員の参加で活発な論議となっている。法人の院長も加わり、医療的な見地の話も推進委員には好評を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の職員の方にも運営推進会議には出席していただき、ホームでの取り組みや目標を報告し理解していただいている。	不明なことや制度の改正点について、都度役場の担当にお聞きするなど、なんでも聞ける・話せる関係を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議、勉強会で話し合い、全員周知し理解を心掛け、徘徊など、利用者様の状況に応じて居室の移動や見守りを行うなどの配慮し、玄関は常に開放している。	母体が医療法人であり、拘束については勉強会等で普段から学んでおり、お互いに気付いた点はその場で話し合い訂正するよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会には積極的に参加し、知り得た情報・知識を職員会議や勉強会で報告し、話し合い実践につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、職員全員が理解できるよう努めている。必要な利用者様がいる場合にはその都度説明やアドバイスをを行い支援するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に時間を設け、重要事項などを丁寧に説明し、事業者のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた対応可能な範囲について説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の不満や意見は傾聴するよう努め、情報を共有するよう心がけている。ご家族様には気軽に話して頂ける雰囲気作りに努め、要望は職員間で話し合い、反映するようにしています。	家族の来所時に、率先して要望意見を聞く体制で臨んでおり、意見が出た場合、職員間で論議共有し運営やケアに反映する取り組みに努めている。	来所時の聞き取りも重要であるが、アンケート調査等、もっと積極的に意見を求める工夫を重ね、サービス向上に取り組むよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、職員会議、勉強会、面談などを行い、コミュニケーションを図るよう心がけている。	毎日の申し送りや、月に2度の職員会議で取り込んでおり、年に数度、個人面談なども取り混ぜて意見を反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持ち働けるよう資格取得に向けた支援を行っている。 又、健康管理のため、柏木内科で健康診断を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し、スキルアップにつなげている。 研修報告はその都度行い、職員全員勉強会に参加し理解している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質を向上させる為、研修会での同業者との交流、意見交換などを積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と関わりながら本人のニーズ等を聞き、安心のできる生活が送れるようにします。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望、ニーズ等を十分に聞く時間を取り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じ、その都度対応し、支援の提供やサービスなどにつながるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人が自由な生活、感情表現ができる環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との情報交換を密に行い、現状の報告や日々の出来事などを共有できるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた場所や馴染みの方々が気軽に立ち寄っていただける環境、お祭り等の参加でのつながりに努めている。	地域の利用者が多く、買い物や床屋等の馴染みの場の利用で、関係性が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、皆さんと楽しく過ごす時間を作るよう、職員とのコミュニケーションが取れるよう努めている。 職員とのコミュニケーションを取るようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も行事等の折には招待したり、お会いしたいにはさりげない声かけを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を把握できるよう、傾聴を基本とし、言葉がけや支援の仕方についてスタッフ間で話し合っている。	日々の生活を寄りそって支援し、その中から得た意向や思いを職員間で共有し、本人本位に考え、介護優先にならないように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーや個人情報の保護に配慮しつつ家族や関係者からの聞き取りを行い、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の援助で得た情報を共有し、個人の全体像を把握して、生活のリズムを理解しサポートしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者とその家族様の要望を元に、現状に添ったより良い支援が出来るように介護プランを作成し実践している。	本人家族の要望を中心に、主治医の意見、現場の要望を加味し介護計画を作成している。	介護計画は、ケアの基本となるものであり、短期目標などの進捗度や達成度は毎日確認する必要がある。そのため介護プランと連動した介護日誌によるプランとモニタリングの進行管理に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルにて生活・身体の状態を細かに記録し、日常の様子がいつでも確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの現状に添ったサービスが提供出来るよう定期的にカンファレンスを行い、スタッフ間の情報交換を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常日頃より利用者様の情報について連絡を取り、ホームのおたよりなどで情報発信を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の医院にて看護師の往診を受け、健康面での細やかな支援を受けている。	母体医院の利用者が多く、専門医以外はその往診等で利用者の医療を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の医院より常時看護師が利用者の健康管理を行い、身体状況を把握しているため、気軽に相談でき、利用者の状態の変化には適切な受診や看護が受けられる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や事業所代表の院長、入院先の医師と治療方針、退院に向けての話し合いが行われ情報交換も密に行われている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	100歳前後の方も多く入居しているため、本人と家族の希望で生涯をホームで送りたいとの希望があれば事業所代表の院長と終末期ケアのあり方を共有し、変化に伴いその都度家族との話し合いの場を設けている。	看取りについて、本人家族の希望に基づいて前向きに取り組んでいる。事業所長が介護計画にも参画している母体医院の院長であり、都度的確なアドバイスで重度化ケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成しホールに掲げ、常時職員が把握できるようにしている。又、救命処置の講習も受講している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施しており、地域との連携についても運営推進会議で代表の方と災害時の対策について話し合っている。	年に2回、夜間想定を含めた防災訓練を地域住民を取り込んで行っている。備品についても適切に保存され災害に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や会議で意識向上を図っており、日々の関わりを振り返り、利用者のプライバシーを損ねない対応を行っている。	日々の接し方やケアについても、最大限に尊厳に注意し、親しさと馴れ馴れしさの違いをわきまえて接している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自ら考えて行動できる時間を多く設け、話題提供のアプローチで引き出すよう日常的に心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リスク回避のための誘導はあるが、本人の気持ちを考え、希望を引き出し個別性のある支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を中心に考え、その人らしいおしゃれを楽しんで頂き、出張美容も利用している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものを提供し、季節感を味わっていたり、個々に応じ食べやすいように工夫し下準備や下膳等出来ることは一緒に行っている。	各事業所ごとに独自のメニューに工夫を凝らして、旬を大事に明るい食事になるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状況により調理法を変え、一日のバランスを考え、ムラが生じないように水分や食事のチェック表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員と共に残存機能を生かせるよう声かけしながら毎食後行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のサイクルに合わせ、サインを見逃すことなく気持ちよくトイレでの排泄ができるよう、自立にむけた支援を行っている。	トイレでの排泄を中心に取り組んでおり、おむつ使用からリハパンへの移行を目指しながら日々努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員の記録表を全職員が把握し、水分や繊維質の野菜等を食事に取り入れ、レクレーション、リハビリで身体を動かす予防に向けた支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分を尊重し、個々のペースで希望に添うようにできることを声かけしながら気持ちよく入浴するよう支援している。	無理強いすることのない、ゆったりとしたお風呂になるよう支援している。お湯も毎回新しく入れ直し、満足と衛生に配慮した取り組みとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活のリズムを考え、夜不眠の方には職員が話をよく聞き、状況に応じて軽いおやつやお茶を差し上げ安心して入眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬状を添付していつでも確認できるようにしており、状態の変化にはその都度主治医に報告し指示を受けて速やかに対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、回想法を取り入れて発揮出来る場面を作り、外出や年間行事等利用者様の意見も尊重しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が付き添い歩行困難な利用者様も介護タクシーで外出できるようにしている。外食、買い物、お花見などホーム外でも楽しめるようにしている。	外出には介護タクシーを利用し、歩行困難者もゆっくりと出来る様に努めている。お花見や買い物など寛げる外出に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より一定額のお金を預かりしている。事業者が管理している方でも外出時のお買い物では自分で支払えるよう工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じていつでも電話をかけられるようにしている。居室で気軽にお話出来る様プライバシーの尊重にも心がけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分や居室には名称を明記し混乱しないようにしている。又、季節感を味わっていただけるよう、施設内に四季折々の飾りやポスターを掲示している。衣替えの時期には利用者様と一緒にタンスの整理等を行っている。	建物はゆったりとした造作で、居間も大きく、ちょっとしたゲームや音楽会も十分に活用できるスペースになっている。壁の装飾も華美ではなく落ち着いた雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはカラオケやCDを配置し、音楽を聴いたり歌ったりして楽しんでいる。ソファでくつろぎ本を読んだりして個々に楽しむ空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の思い出の品や趣味の道具(編み物、折り紙など)を居室に配置し、楽しんでいただけるよう心がけている。	各室はその人らしいこしらえになっており、使い慣れた家財も見うけられ、心地よい工夫が施されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内すべてに手摺りを設置し、バリアフリーになっている。出来ることを活かせるよう声かけし、見守り、一人であることを尊重し安全に行えるよう工夫している。		